

各 位

2026 年 6 月 23 日

会社名      セルソース株式会社  
代表者名    代表取締役社長 CEO 山川 雅之  
コード番号 4880 東証スタンダード  
問合せ先    取締役 CFO 伊賀 智洋  
TEL 03-6455-5308

## 「ひざの悩みトリサル委員会」始動。

ひざ治療の新しいふつう、もうはじまっています。

加工受託実績として全国 2,100 医療機関・累計 13 万件に広がる再生医療等を、患者と医師のリアルから伝える。患者・医師ドキュメンタリー映像を公開。

セルソース株式会社（代表取締役社長 CEO：山川 雅之、以下「当社」）は、2026 年 6 月 23 日(火)、医療機関・医療従事者と共にひざの健康啓発に取り組む共同プロジェクト「ひざの悩みトリサル委員会」として啓発サイト（<https://www.hizanonayami-torisaru.com/>）を公開しました。



ひざの悩みトリサル委員会

今回実施した、ひざに関する調査（実施：当社）では、ひざ不調者の74.4%が医療機関を受診していない実態や、提示される治療の選択肢の偏りが明らかとなりました。一方で、近年再生医療等は、当社の加工受託実績としても、全国2,100以上の医療機関にて治療として提供され、累計13万件を超える実績で、その規模は広がりがつあります。

"ひざ治療の新しいふつう"はすぐ近くで始まっているにもかかわらず、生活者にその実感が十分には届いていない——この"ギャップ"こそが、本プロジェクトの出発点です。

本プロジェクトは、「ひざ治療のあたらしいふつう、もうはじまっています」をキーメッセージに、患者・医師のドキュメンタリー映像や全国40-70代1,000名の意識調査結果等を通じて、医療機関の皆さまと共に、生活者にひざの健康と向き合う機会を届けてまいります。

### 本プロジェクト発足背景 ～生活者とひざ医療の間に残る "すれ違い"～

同時公開の全国意識調査が示す生活者の実態により、本プロジェクトは開始いたしました。

調査では、40代以上の約半数がひざに不調を抱える一方、そのうち74.4%は医療機関を受診していないことが明らかとなりました。さらに、ひざの痛みが今後の人生に与える影響として「嫌だ」と感じる項目の1位は「家族に介護の迷惑をかけてしまうこと」で84.6%。生活者は自身のつらさ以上に家族への負担を恐れています。

また、人生100年時代において「最も維持したい能力」の1位は「移動能力」で39.3%でした。"動ける体"こそが長寿時代を自分らしく生きる最大の条件として意識されながら、ひざ医療に至っていない——生活者と医療の現場の間に、まだ十分に届いていない情報があると考えられます。本プロジェクトは、このような"必要としている人に必要な情報が届きにくい"という社会課題に対し、新たな接点の創出に取り組みます。

### [調査の内容についてはこちら](#)

### キーメッセージ "ひざ治療の新しいふつう、もうはじまっています"

再生医療等は、自己の血液や脂肪組織から成分を抽出・加工し、治療に活用するPRP療法・PFC-FD™療法・脂肪由来幹細胞を用いた治療等の総称です。ひざをはじめとする整形外科領域でも導入が進み、当社の加工受託実績として、全国で2,100以上の医療機関で治療の選択肢の一つとして提供されており、累計13万件を超えています。

新しいひざ治療の選択肢は、今では生活者のすぐ近くにある現実として広がりがつあります。本プロジェクトのキーメッセージ「ひざ治療の新しいふつう、もうはじまっています」は、"すでに広がっている事実"と、"生活者に十分には伝わっていない現状"——その両方を受けとめたメッセージです。

※「PFC-FD™」はセルソース株式会社の商標です

### 啓発サイトを公開

本プロジェクトのサイトは、"知る"ことから、自分のひざの未来を考え始められる場を目指しています。ひざの不調を「年のせい」と片付けてしまう前に、広がりがつある治療選択肢を知り、医師との対話を経て自分

にあった治療を選択する。正しく知ることは、不安と向き合い、自分の可能性を広げるための入り口になります。医師・患者のリアルな声、全国意識調査の結果、治療選択肢の基礎知識を織り交ぜ、発信してまいります。

### 啓発サイトを公開

#### ▽啓発サイトの構成について

サイトは、以下のようなコンテンツを中心に構成されています。

- ・ひざの悩みトリサル委員会 — 共同啓発プロジェクトの趣旨と、参画医療機関の紹介
- ・知ろう！ひざの痛みの正体 — 痛みのメカニズムに関する基礎知識
- ・知ろう！新しいひざ治療 — 広がりつつある治療選択肢の基礎知識
- ・40-70代男女を対象にした全国意識調査の結果公開
- ・2本のドキュメンタリー映像 — 患者と医師、それぞれが語る現在地

#### 動画①：患者ドキュメンタリー、ひざの不調に向き合う生活者のリアルな声

“仕方がないかなと。全て加齢ということで片付けてしまっているような気がします。”

“再生医療等は新聞などで見聞きしていましたが、それをひざの治療に使うということは、今回はじめて知りました。”

“大丈夫って思える、お守り的な情報”

全国意識調査の中で、ひざの不調に向き合う生活者自身のリアルな価値観や声取材したドキュメンタリー映像です。「加齢で片付ける」日常から、“自分のひざと向き合う余地がまだある”と気づいていく——本調査で浮き彫りとなった“諦め”と“このままでいいのかという不安”が同居する生活者の心の変化が見えてきます。

#### 動画②：医師ドキュメンタリー、ひざ治療に向き合う医療機関のリアル

[ご協力いただいた医師のコメント（50音順）]

##### 1. 出田聡志先生（長崎県）コメント

“治療していく中でやりがいを感じるのは、ここに来てよかったと言ってもらえる時ですね。いろんな病院を受診してみたけどよくならなくて、うちに来て新しいことを知れてよかった、そういう声をいただく瞬間が私のやりがいです”

##### 2. 土方康三先生（愛知県）コメント

“再生医療等というものは、やれば絶対治るというものではなくて、ひとりひとりその期待値も異なるものです。そうしたことも正しく理解いただいた上で、一緒にお話ししながら適材適所に導入していく、その

見極めがドクターとして求められる力量だと思い日々臨んでいます”

### 3. 松田芳和先生（埼玉県） コメント

“再生医療等は少しずつ広がってきているものの、まだまだ認知度が非常に低いです。まずは再生医療等があるということを多くの人に知ってもらうこと、これがとても大切だと思っています”

再生医療等が導入された全国の医療現場で実際に起きている変化を描いています。実際に臨床の現場で治療を提供する医師たちにとって、「再生医療等」はどのような存在になっているのか、現在どのような課題を感じているのかヒアリングし、再生医療等、治療の選択肢が増えてきたことで生まれる医師と患者の関係性の変化に密着しました。そこには、“人に寄り添う”関係性がありました。選択肢が増え、ひざ治療の可能性が広がっていることを、まずは患者さんに知ってほしい、「ひざPON！先生と一歩前へ」というメッセージにはそうした医師たちの想いが込められています。

#### ◆今後の展開について

本活動を通じた生活者向け啓発活動の拡大と、参画医療機関ネットワークの拡充に継続して取り組んでまいります。あわせて、医療機関への情報提供・教育支援・資材提供を通じ、ひざの健康に関する情報環境の整備を支援いたします。

“「知らなかった」が「選べなかった」にならないように。” 全国の医療機関と生活者双方に、より確かな選択肢として届けていく。本プロジェクトは、そのための第一歩です。

#### ◆「ひざの悩みトリサル委員会」について

当社が事務局を務める「ひざの悩みトリサル委員会」は、医療機関・医療従事者・生活者が共にひざの健康と治療について学び、伝え、広げていくことを目指す共同プロジェクトです。

当社は事務局として、医療機関への情報提供・教育支援・資材開発と、生活者への啓発活動の両輪を担います。全国の参画医療機関・医師と連携しながら、正しい知識と複数の選択肢が、医療現場と生活の双方に届く環境づくりを進めてまいります。

【セルソース株式会社について】

再生医療の産業化推進を目的とし、脂肪由来幹細胞・滑膜由来幹細胞・血液の加工受託や再生医療を提供する医療機関さまへの法規対応サポート等の再生医療関連事業を展開しています。再生医療等安全性確保法にもとづく特定細胞加工物製造許可施設（施設番号：FA3240004）にて13万件超の細胞等加工を受託しており、豊富な実績をもとに医療機関さまに安心してご利用いただけるサービスの提供と、研究・技術開発に努めています。

代表者 代表取締役社長 CEO 山川 雅之

所在地 東京都渋谷区渋谷 1-23-21 渋谷キャスト 11F

事業内容 再生医療関連事業

<https://www.cellsource.co.jp/>

以 上